



学校だより

広島市立安北小学校
号 外

広島市安佐南区高取北二丁目30-1

TEL (082) 872-0881

FAX (082) 872-9681

平成25年度「基礎・基本」定着状況調査 結果報告

6月に実施した「基礎・基本」定着状況調査の集計結果を報告します。

広島県、広島市、本校の平均通過率は次のようになりました。

	広島県	広島市	安北 小学校
国語科	70.1	66.0	68.6
算数科	69.8	66.7	68.3
理 科	61.3	57.9	60.3

	タイプ	広島県	広島市	安北小
国語科	基本	77.2	73.2	76.7
	応用力	38.2	33.8	32.3
算数科	基本	70.1	66.7	68.8
	応用力	68.1	66.4	65.7
理科	基本	63.9	60.2	62.7
	応用力	56.8	53.8	56.2

【学習状況の調査結果の概要】

本校は、広島県と広島市のほぼ中間にあり、本校の児童は、概ね平均的な「基礎・基本」の力が付いているということが分かります。

タイプ別の「基本的な内容」に対し、「応用的な内容」の問題の通過率を見てみると、国語科、算数科で広島県、広島市の通過率をいずれも少し下回っていることが分かります。このことから、「基礎・基本」を大切にしながら、応用力を育てていく必要があるということが分かりました。

【国語科】

国語科は今年度、若干問題の傾向も変わり記述問題が増えたこともあって、時間が足りないと感じた児童が多かったようです。学級新聞をまとめる設定の出題で、限られた時間の中で自分の考えをまとめ、文章にしていく難しさがあったようです。

時間が足りなかったとはいえ、低い通過率となり、論理的に文章を書く能力がっていない児童が多いという実態が明らかになりました。

これらの課題を受けて、次の3つのような授業改善を行っていく必要があると考え実践を進めます。

- ① 説明的文章に慣れさせ、論理的な思考力を付ける
- ② 家庭学習の工夫により（「子ども新聞」の音読、感想）自分の意見を持つことを習慣化させる
- ③ ミニ意見文を書く
始め……自分の意見を書く 中……理由を書き、具体例を示す 終わり……まとめの意見を書くという結論先行型の段落構成

【算数科】

算数科は応用別問題で、少し広島県、広島市より下回りました。特に図形の三角定規の特徴を活かし正方形であることを証明する問題の通過率は、低いものになりました。

課題として、図形の定義を正しく理解していても、それを使って説明することができないということが挙げられます。既習事項を使って、応用する力が低いことが表れています。

この課題の解決策として、次の2つのような授業改善を行っていく必要があると考え実践を進めます。

- ① 既習事項を繰り返し復習し、定着を図る
- ② 応用問題を正しく読み取り、既習事項を活用して説明することができるようにする

習ったことを使うと、こんな問題も解けるのかという喜びを味わわせ、もっと解いてみたいという新たな意欲につなげていきたいものです。

【理科】

理科では、大きく2つの課題が見えてきました。

1つ目は実験結果と法則を結びつけることができているということですが、電池の直列つなぎの方の車が速く走ると考えた理由を問う問題では、平均通過率は25.9%でした。直列つなぎの方が速いという実験結果はよく理解しているのですが、それを「直列つなぎの方が流れる電流が大きい」という事象と結びつけることができていませんでした。

2つ目はグラフの縦軸や横軸が何を表しているのかを読み取ることができていないということで、通過率は、22%でした。

これらの課題を受けて、理科は次の3つの授業改善を行っていく必要があると考え実践を進めます。

- ① 目的をはっきりさせた観察・実験を行い、結論との対応を意識させる
- ② 生活化・応用化を意識した学習活動を行う
- ③ グラフを正しく読み取り、結果をまとめる学習を進める

【生活】

児童質問紙に、「自分のよさは、周りの人から認められていると思いますか。」という項目がありました。子どもたちの回答状況を見てみると、肯定的評価をしている子どもたちは55.3%でした。学校生活を見ていると、真面目で素直な心持ちで生活している児童が多いと感じています。しかしながら、多くの子どもたちは自分のよさに気付かず、「自分に自信がない」と感じているようでした。例年、この項目については、肯定的評価が低い傾向にあります。

この課題の改善に向けて、次の2つの取り組みを進めます。

1つ目は、MVPカードの活用です。自分で考えてよりよい行動をした子どもたちを、みんなの前で誉め、手渡すのがMVPカードです。自分が頑張ることを誰かが見ている、それがしっかりと評価されることが大きな励みとなり、自信にもつながっていきます。学年集会等の場を利用して、継続していきたい取り組みだと考えています。

2つ目は、交換授業等の実施です。担任外の先生との授業を通して、いろいろな見方でいろいろな評価を得、ほめられたことで、自分でも気付かない「新たな自分」を発見し、のびのびと自信を持って成長できるものと思われれます。

本校の児童は、学校に行くのを楽しみにしており、自分の力を伸ばしたいという意欲にあふれています。その気持ちに答えるべくこれからも、電子黒板を活用したり、共同学習の形態なども取り入れたりしながら全職員で研修を積み、児童一人一人の力を伸ばす授業づくりに取り組みます。今後とも、ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。